

えひめ Ehime Health Report

健康だより

CONTENTS

子宮頸がん検診におけるHPVテストの役割について	1
食品のはなし ～腸炎ビブリオについて～	4
腹部超音波検査のご紹介・がん検診Q&A	5
協会ル～キ～ず・インフォメーション	6



伯方島 開山公園より 多々羅大橋（今治市伯方町）



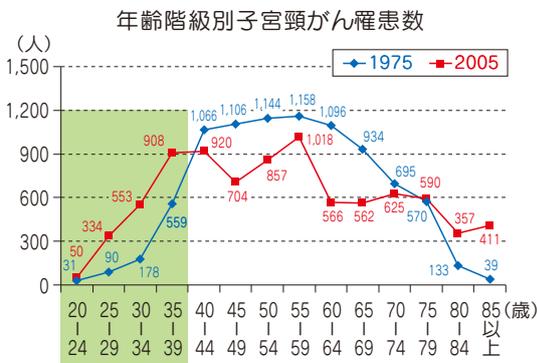
公益財団法人
愛媛県総合保健協会

子宮頸がん検診におけるHPVテストの役割について 細胞診、HPVテスト併用検診の今後の動向と課題

公益財団法人 愛媛県総合保健協会 健康増進部 佐伯 健二
監修 愛媛県産婦人科医会 会長 池谷 東彦

はじめに

2012年地域がん登録による罹患全国推計によると子宮がんにかかる人は、全体として年間約18,600人で、このうち子宮頸がんが約9,000人、子宮体がんが約8,600人、どの部位か情報がない子宮がんが約1,000人となっています。また、頸がんの約3人に1人が死亡しています。近年、頸がんの若年化が著しく40歳未満においてはすべての年齢層において増加しています。



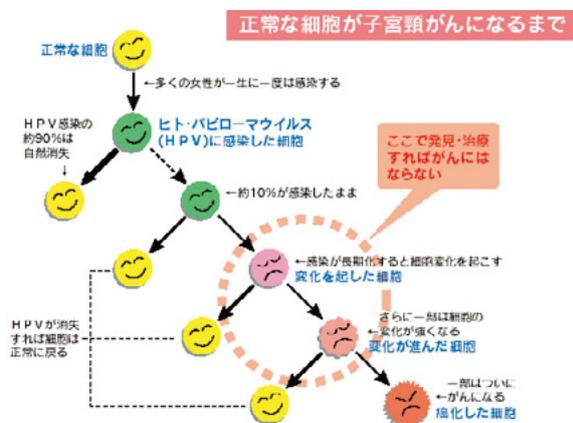
若年化の問題は、出産の高齢化にともない妊婦検診時にがんが発見される、あるいは、出産前に子宮を摘出するなど深刻な事態に至ることも稀ではありません。

頸がんの原因がヒトパピローマウイルスと特定され、平成21年からわが国でもワクチンが承認され、頸がん発生の約7割は阻止されるといわれるようになりました。ワクチン受診率の向上とがん検診の受診率の向上が課題となっています。継年検診によって、前がん状態での発見が可能である

にも関わらず、頸がん罹患者の30%強が死亡するという事態は、改善が急務と考えます。

近年、頸がん検診の効率化と精度の向上を目的に、HPVテストを細胞診と併用して実施し、島根県をはじめ、すぐれた結果が発表されています。また、日本産婦人科医会は併用検診に対してリコメンデーションを表明しており、これらにもとづいて当協会もHPVテストの機器整備等に着手し、平成24年度末に完了しました。

頸がんとヒトパピローマウイルス (Human papillomavirus : HPV) について



1983年に子宮頸がん患者よりヒトパピローマウイルス (HPV) が発見されました。これにより、女性のがんとして世界では2番目に多い子宮頸がんは、HPVに感染することにより発症することが明らかになりました。

この、「子宮頸がんを引き起こすパピローマウイルス」を発見した独のツア・ハウゼン教授には、2008年度ノーベル生理学医学賞が授与されました。現在、研究成果をもとに予防ワクチンが開発され、世界100カ国以上で使われています。

HPVは、皮膚と皮膚（粘膜）の接触によって感染するウイルスで、多くの場合、性交渉によ

って感染すると考えられています。「HPVは、すべての女性の約80%が一生に一度は感染している。」と報告があるほどとてもありふれたウイルスです。そのため、性行動のあるすべての女性が子宮頸がんになる可能性を持っています。ほとんどの場合自己の免疫などで排除されますが、長期間にわたる持続感染によってリスクが高くなるといわれています。

HPVテストと併用検診について

これまでの細胞診検査は子宮頸部・頸部から採取した細胞に異型細胞が出現していないかを調べていました。一方、HPVテストとはHPVウイルスの感染の有無を調べる検査です。HPVウイルスには150種類以上の型がありますが、HPVテストは遺伝子検査技術を使って頸がんを引き起こすといわれる高リスク型HPV（約13種類のHPV）に対する感染の有無を調べます。発がんを引き起こすリスクがあるかがわかり、細胞に異型が発現する前に陽性となります。これらを併せて実施することによって中等度異形成以上の100%が見つかると言われ精度の向上が期待されています。



(写真は平成24年度末に導入したHPVテストに用いるDNA分析機)

HPV検査と細胞診検査の併用により、なぜ精度があがるか

1) これまで実施してきた細胞診の特徴は

- 細胞診での形態学的診断では、直接細胞を観察しているため特異度が高い（がんを診断されたらがんであることが多い）
- 形態学的に人が観察しているため感度には限界がある（すべてのがんを拾い上げることが可能な訳ではない）

例えば、採取した検体に十分な数の細胞が含まれていないと、細胞診で偽陰性になる可能性があります。異常な細胞が子宮頸部の粘液や炎症細胞に隠れてしまい、見えにくくなることもあります。これらの問題を改善するため当協会は、自治体の協力とご理解を頂き平成22年度から液状処理細胞診とベセスダシステムを導入しました。これまでの方法は細胞を採取する医師、顕微鏡でスクリーニングを行う細胞検査士、細胞診専門医がそれぞれ密接に協力し徹底した精度管理の中で実施し、「ゴールデンスタンダード」と言われてきましたが、ヒューマンエラーを完全に回避することはできません。

2) HPVテストの特徴は

- HPV検査では感度は高いが、陽性率も高く、20歳代においては特に陽性率が高く、特異度は細胞診に比べ劣る。
- HPVは、すべての女性の約80%が一生涯に一度は感染している。ほとんどの場合陰性化する。リスクを検査しているということを十分に説明し理解していただくことが大切。

両者を併用することにより、お互いの欠点を補い、精度の高い検診が可能となる。特に、中等度異形成以上の100%を検出することが可能といわれています。

愛媛県は先進県!?

液状処理細胞診の普及率は全国的には低迷しており、地域住民検診の100%に実施しているのは数県に限られます。本県は、液状処理細胞診、ベセスダシステムを導入し、すでに2年が経過し定着しています。これらの条件はHPVテストを実施していくための必要最小限の条件です。

このような状況の中、今回、「HPV検査」の最新機器を自施設内に導入いたしました。

公的検診補助を受けている施設が併用検診を自施設で行うのは全国で初めてです。多くの公的検

コラム

ライフスタイルの変化にともない、子宮体がんが増加しています。現在、頸がんとの比率はほぼ同じで、今後の増加が懸念されています。当協会は、人間ドックで体がん検診を実施しています。今年度から検診車を派遣する地域検診においても体がん検診を開始いたします。

現在、体がん検診を行うための検診車を製作中です。秋頃にはご案内できる予定です。体がん検診においても全国に先駆けて普及啓発、そして実施と尽力いたします。

診補助を受けている施設ではHPV検査は外部委託していることが多いのですが、自施設内に機器整備を完了したことにより、一度の検体採取で「細胞診検査」と「HPV検査」を同時に効率的に行うことが可能となり、各市町村にとってもこれまでの「細胞診検査」に加え「HPV検査」の採用の併用を実施することが容易となりました。子宮頸がん検診の細胞診検査にHPV検査を加え併用検診を実施することで、地域の子宮頸がん予防に、これまで以上に尽力していきたいと考えます。

今回の検査機器導入による県民の方々へのメリットは以下の通りです。

- ① 細胞診標本作製後の残り細胞検体でHPV検査が可能のため、併用検診の実施はもちろんのこと、「細胞診検査」の結果、再検査となり「HPV検査」を行う場合でも、もう一度検査機関を受診する必要がなくなります。当協会内での施設検診および医療機関からの受託検査においてはすでに効果を発揮しています。
- ② HPV検査の外部委託が不要となったため、自施設内での一貫したシステムで管理精度が向上。
- ③ 検査結果報告までの日数短縮。

これまでは、通常細胞診検査の結果に約2～3週間、そしてHPV検査が必要な場合には医療機関にて再受診していただき、その後の結果の通知までに約1週間が必要でしたが、液状処理細胞診と自施設でのHPVテスト実施により報告までの日数が大幅に短縮できます。

実際に併用検診を実施した場合

- ① 高度病変(CIN2以上)の検出精度が飛躍的に向上する。
- ② 細胞診陰性、HPVテスト陽性の場合、次年度受診を促すためリスクマネジメントに優れる。
- ③ 精度の向上と費用対効果に優れる。

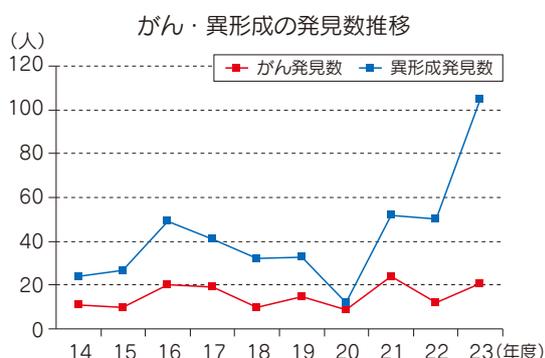
併用検診実施自治体から、細胞診・HPV検査両方陰性の場合、3年後の検診でよいので、費用対効果にすぐれるとの報告がなされています。

子宮頸がん検診の目的は…がんを発見すること？

- 愛媛県の子宮頸がん検診の受診率は低迷しています。本県では20%前後と推測されています。
- 普及啓発を行い検診を受けていない方を掘り起こしがんを早期に発見すること。
 - 継続検診の受診者に対しては異形成と言われる前がん状態で発見することが重要と考えます。

下のグラフを見ると異形成は、クーポンが導入された平成21年度から増加しています。内訳をみてもクーポン利用の新規受診者から発見されたケースが多く見られました。注目すべきこととして平成23年度からの急激な異形成の増加があります。同年に液状処理細胞診とベセスダシステムを導入いたしました。優れた細胞採取法と検体作成法の導入効果と考えます。がんの発見には従来法でも十分な効果が発揮されますが、異形成という前がん病変においては優れた検査方法の導入が検診結果に反映されたと考えます。

子宮頸がん患者の約3人に1人が死亡しています。普及啓発を行い受診率を高め死亡率減少に寄与していくことが重要な課題と考えます。また、継続受診者は異形成の段階で発見しクオリティライフの維持、医療費の削減を目標に検診を押し進めていきます。



今後の対応 より精度の高い子宮頸がん検診のために

国は若年層にHPV感染が高率に認められることから、30歳からのHPV併用検診の導入を検討しています。30歳未満に対しては、細胞診の単独検診が望ましいとされています。当協会では、既に導入しているLBC（液状化検体細胞診）および今回のHPV検査機器導入により、どちらの年齢層にもより精度の高い子宮頸がん検診を提供できるようになりました。定期的な子宮頸がん検診で確実に子宮頸がんを早期発見し、がん死亡率が低下するように、検査精度の向上と効率化を進めていきます。そのためには、自施設に機器を整備し併用検診を推進していくことが大切と考えました。全国的に併用検診が補助金下を実施されるには、液状処理細胞診の導入すら困難な未整備な地域が多く、一斉方式では検診の平等性の観点が保てず、国は手あげ方式など、検診を実施していくための要求事項が満たされている自治体に対しての補助を打ち出しています。一方、国の動きとは別にすでに多くの自治体が独自に併用検診を行い、精度、費用面ともに効果を上げている報告が多くなりました。これらの動きに追従すべく受診率の向上、併用検診の普及啓発に尽力いたします。

これまで以上に精度管理を徹底し、地域の皆様の健康づくりに、がんの発見に、そして、死亡率の減少へと寄与していきたいと考えます。

コラム

今年度、施設内において婦人がんをはじめ各種がんの無料相談を行います。まず、肺がん、乳がん、子宮がんからご案内していく予定です。

9月のがん征圧月間の頃には、ご希望の方に対して予約制でご案内いたします。

食品のはなし ～腸炎ビブリオについて～

夏は食中毒が多発する季節です。中でも、魚介類を原因として発生する腸炎ビブリオによる食中毒は、夏場（6月～10月）に猛威をふるいます。

腸炎ビブリオは海水や海底の泥に存在し、海水の温度や気温が上昇すると海水中で大量に増殖し、魚や貝に付着します。一般の細菌に比べ増殖するスピードがとても速く、夏場には急速に増殖します。

腸炎ビブリオ食中毒は、汚染された食品を摂取すると、腸内で増殖し、急性胃腸炎などの中毒症状をおこす細菌性食中毒です。日本で発生する食中毒の原因菌としては、サルモネラと並んで件数が多く、魚介類の生食を好む日本人の食文化と大きく関連していると考えられます。

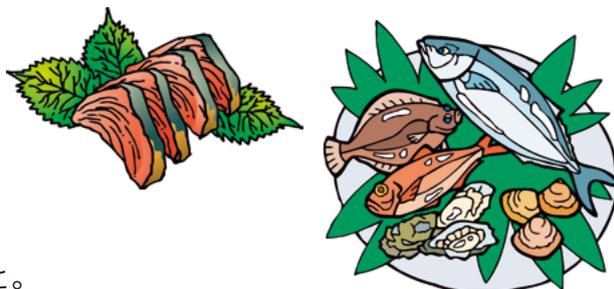
【腸炎ビブリオ食中毒予防方法】

腸炎ビブリオは、4℃以下ではほとんど増殖できないため、冷蔵庫のチルド室（0～4℃）を活用して、わずかな時間でも冷蔵保存しましょう。

また、腸炎ビブリオは真水の中では生きていけないので、魚介類を調理の前に、水道水などで十分に洗いましょう。

【水産食品に係る規格（参考）】

- 切り身、むき身の生食用鮮魚介類加工品
成分規格：100MPN/g以下
（MPNとは最確数を表す）
- ゆでがに、ゆでだこ
成分規格：腸炎ビブリオが陰性であること。



腹部超音波検査のご紹介

腹部超音波で何が分かるのですか？

●胆嚢について

胆嚢は肝臓で作られた胆汁を溜めておく袋のようなものです。

胆汁とは脂肪の消化吸収を助ける液体です。肝臓と十二指腸に接続しています。

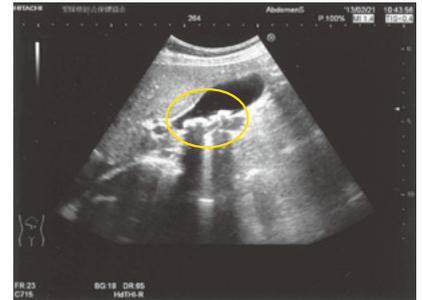
●主な疾患は？

胆石

胆石はほとんどがコレステロール結石というものです。

胆汁の中にはコレステロールも含まれており、胆汁が濃縮する際に何らかの原因で結晶化したものがコレステロール結石です。脂肪分やカロリーの高い食事で多く発生するといわれていますが、はっきりした原因は不明です。

胆石が胆汁の通路となる胆管を通り抜ける際に痛みを伴う場合があります。



胆嚢ポリープ

胆嚢内側の粘膜が、きのこ状に盛り上がったものです。コレステロールが粘膜に沈着したコレステロールポリープがほとんどです。

10mm以上で表面がごつごつしているものは胆嚢がんの疑いがあります。

※超音波検査は放射線を一切使わず、痛みや危険性もない手軽な検査です。



がん検診 Q & A

Q

胸部検診の案内が来ましたが、私はタバコを吸いませんし、今まで胸部検診で精密検査になったこともありません。また、レントゲン検査は被ばくも心配です。毎年受ける必要があるのでしょうか？



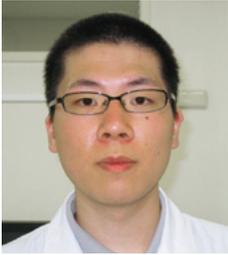
A

確かに「タバコ」は肺がんの危険因子ですが、タバコを吸わないからといって、肺がんにならないとは限りません。

また、過去に精密検査になったことがなくても、自覚症状のない初期の肺がんや結核などの感染症は、いつ発症するか分かりません。

被ばくも、検診で使うレントゲンは非常に少ないものですし、病気を早期にみつけるためにも、定期的を受診されることをお勧めします。

“協会ル〜キ〜ず” みなさまよろしくお願ひします



ふじた たいし
藤田 泰史

所属：健康増進部 病理検査課
趣味：音楽鑑賞
好きな言葉：継続は力なり
尊敬する人：両親

健康増進部 病理検査課の臨床検査技師、藤田 泰史と申します。2012年4月に採用となり、1年が経ちました。主に子宮がん検診・肺がん検診の検体処理を担当しています。1年目は、仕事を覚えていくうちにたちまち健診時期と重なり、日々大量の検体処理に追われ、あっという間に時間が過ぎて行きました。

病理検査に従事している人達には、一人二役以上の仕事ができる人がたくさんいて、人手の足りないところがあれば応援に出向くこともあります。私はまだ、一人二役以上の仕事をする事ができませんが、いずれは多くの仕事をこなせるようになり、必要とされる人材になれるように、日々の業務に励んでいこうと思っています。至らない点が多々あると思いますが、今後ともよろしくお願ひいたします。



インフォメーション



超音波検診車の導入

2013年5月10日(金)に、5台目の超音波検診車を導入しました。これで、超音波装置2機搭載車輦が3台、1機搭載車輦が2台となりました。

これからも様々な場所に出張し、検診を実施します。



ピンクリボン運動に協力

当協会の1階自販機コーナーに、「松山自販機サービス(株)」様のご厚意により、ピンクリボンえひめ協議会のロゴマークと乳がん検診の受診を呼びかけるコメントが掲示されました。2013年5月15日(水)設置。



日本対がん協会から乳房触診モデルの寄贈

2012年度「乳房触診モデル普及キャンペーン(協力：(株)セシール)」に応募したところ、日本対がん協会から当協会に「乳房触診モデル」が寄贈されました。

2013年5月25日(土)松山市の「はなみずきセンターまつり」にて、寄贈された乳房触診モデルを使って、乳がん相談を行いました。



当協会スタッフの紹介

私たちが乳がん検診(マンモグラフィ撮影・乳房超音波検査)のスタッフです。

女性に安心して検診を受けていただくため、すべて女性スタッフで対応しています。



一般社団法人 全国給水衛生検査協会 西日本支部主催「平成25年度 総会・研修会」

水道法の登録検査機関として、水質検査や水質管理に携わっている団体の集まりである全国給水衛生検査協会西日本支部の平成25年度総会・研修会が徳島市で開催され、当協会の環境部(矢野専門員)が四国ブロックの代表として研究発表を行いました。

日時：2013年5月30日(木)
31日(金)

場所：阿波観光ホテル(徳島市)
題名：通気管の維持管理について



■平成25年度 人間ドック健診予定表

子宮がん検診は、セレクトリティコース、レディースコースで実施しています。

男性、女性とも受診できます。

標準コース、
エグゼクティブコース

レディースコース、
(ご夫婦なら男性は次のコースも受診可)
標準コース、エグゼクティブコース

女性だけの受診日です。

セレクトリティコース
(レディースデイ)

レディースコース
(レディースデイ)

7月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

8月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

9月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

10月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

11月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

この日程は、やむを得ず変更となる場合があります。ご予約の際は、事前にご確認ください。

お問い合わせ先

TEL 089-987-8201

■乳がん検診・子宮頸がん検診のお知らせ (当協会)

検査時間

- ・乳がん検診 月～金曜日 15時～18時
- ・子宮頸がん検診 金曜日 15時～18時

- ①無料クーポン対象者
(市町発行のクーポン券をお持ちの方は受診できます)
- ②松山市住民の方
(乳がん40歳以上、子宮頸がん20歳以上の方)
個人負担あり但し、前年度未受診者に限ります。

お申し込み先 ☎0120-636-489

■編集後記

昨夏は、伊方発電所全号機運転停止に伴い電力供給が厳しくなることから四国電力からは計画停電のお知らせがあり、普段何気なく使っている電気を気にしながら過ごした記憶があります。

今年もはや暑い季節を迎え、当協会でも屋内照明・エアコン等節電対策を始めました。

これからのシーズンは県下全域で巡回健診真っ盛りとなり職員一同、梅雨、猛暑に負けない心と体の体調管理で日々頑張っております。

「知恵は寝ている間にボンと湧く」という言葉を本で読んだことがあり、日常で突然閃いたことを書きとめる「アイデア帳」と称したポケットサイズメモ帳を携帯しておりますが、頭が回りのか閃くことは稀であります。

皆様へは「えひめ健康だより」を通して、心が豊かになる新鮮で興味深い内容をお伝えいたしたく編集委員一同知恵を絞っているところです。

(編集長)

■当協会へのご質問等は、下記までお問い合わせください。

- ・施設健診のことは …………… TEL 089-987-8202 ・ FAX 089-987-8251
- ・ドック健診のことは …………… TEL 089-987-8201 ・ FAX 089-915-6057
- ・水質等環境検査のことは …… TEL 089-987-8206 ・ FAX 089-987-8256
- ・その他お問合せ先 …………… TEL 089-987-8200 ・ FAX 089-987-8250



〒790-0814 愛媛県松山市味酒町1丁目10番地5
http://www.eghca.or.jp



総務部・環境部のみ



【個人情報の取り扱いについて】

本誌を送付させて頂いている皆様のお名前、団体名、事業所名、住所は、当協会の個人情報保護方針に基づき、厳重な管理の下に運用しております。個人情報の訂正および削除を希望される場合には、お手数ですが企画渉外課(089-987-8203)までご連絡ください。